

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成23年2月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成23年1月分(平成23年1月3日～平成23年1月30日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	6,460	14.04	13.28	↑	10	百日咳	20	0.07	0.04	↘
2	RSウイルス感染症	288	1.00	1.18	↘	11	ヘルパンギーナ	6	0.02	0.02	
3	咽頭結膜熱	255	0.89	0.32	↘	12	流行性耳下腺炎	386	1.34	0.74	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	437	1.52	1.13	↘	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.02	
5	感染性胃腸炎	2,336	8.11	10.84	↓	14	流行性角結膜炎	69	0.91	0.87	↘
6	水痘	487	1.69	1.69	↘	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	
7	手足口病	20	0.07	0.18	↘	16	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.03	
8	伝染性紅斑	61	0.21	0.16	↗	17	マイコプラズマ肺炎	13	0.15	0.22	↘
9	突発性発しん	146	0.51	0.50	→	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成23年1月分(1月1日～1月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	38	1.73	2.11	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	116	5.52	5.54	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	12	0.55	0.66	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	27	1.29	1.42	↘
21	尖圭コンジローマ	10	0.45	0.48	↘	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.11	
22	淋菌感染症	26	1.18	1.17	↑						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 インフルエンザ(208件 6,460件)
淋菌感染症(11件 26件)
急減疾患 感染性胃腸炎(6,198件 2,336件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178(今月は177)の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13,14	19～22	15～18,23～25	
定点数	43	72	19	22	21	177

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	60	結核(60)〔西部保健所(6),西部東保健所(7),東部保健所(11),北部保健所(3),広島市保健所(19),呉市保健所(10),福山市保健所(4)〕
三類	4	腸管出血性大腸菌感染症(4) O157〔広島市保健所(1),呉市保健所(1),福山市保健所(2)〕
四類	2	つつが虫病(1)〔福山市保健所〕,レジオネラ症(1)〔福山市保健所〕
五類全数	15	アメーバ赤痢(1)〔広島市保健所〕,ウイルス性肝炎(2) B型〔広島市保健所〕,後天性免疫不全症候群(3)〔北部保健所(1),広島市保健所(2)〕,梅毒(2)〔広島市保健所〕,麻しん(7)〔西部東保健所(1),広島市保健所(6)〕

3 一般情報

(1) インフルエンザの流行状況について

平成23年第4週(1月24日～30日)の定点医療機関からのインフルエンザの患者報告数が、西部東保健所管内(竹原市,東広島市,豊田郡)で1定点当たり44.0となり、警報の基準である30.0を超えました。

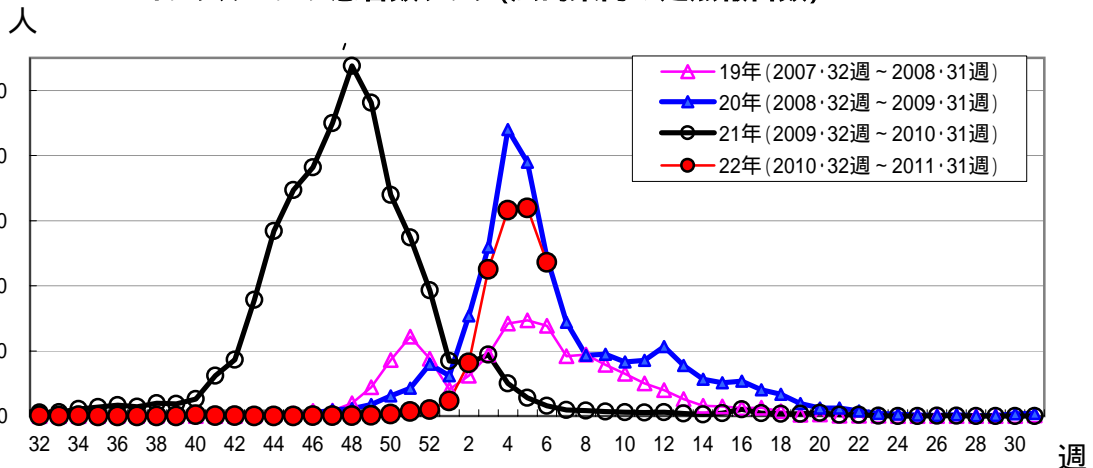
このため、県では、インフルエンザの流行が本格的になったと考えられるため、2月2日に「**インフルエンザ警報**」を発令しました。

1月中旬から、小学校を中心に集団かぜによる学級閉鎖等の報告も相次いでおり、次の点に注意していただき、感染予防を心掛けましょう。

インフルエンザを予防するための注意点

- ・ 流水と石けんで手洗いを励行し、外出から帰ったときは、“うがい”をしましょう。
 - ・ 睡眠をしっかりととり、偏食せずバランスのとれた食事を心掛け、体力をつけましょう。
 - ・ 咳エチケットを守りましょう。
 - ・ 室内は、加湿器などを使って、適度な湿度(50%～60%)を保ちましょう。
 - ・ なるべく人が集まる場所への外出は避けましょう。
 - ・ 症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受けましょう。
- 特に基礎疾患(腎臓疾患,心臓疾患,呼吸器疾患等)をお持ちの方や、妊婦,高齢者,乳幼児は合併症を起こしたり,重症化するおそれがありますので注意しましょう。

インフルエンザ患者数グラフ(広島県内の定点報告数)



(2) 麻しんについて

麻しんは「はしか」とも呼ばれ、春から初夏にかけて流行がみられ一般に小児期に多い急性の感染症ですが、1月に7件(平成22年は年間で8件)と多くの発生がありました。

病原体	麻しんウイルス(空気感染,飛沫感染,接触感染によって,人だけが感染する感染力が強いウイルス)
症状	感染して約10日後に発熱や咳,鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後,39以上の高熱と発疹が出現します。肺炎,中耳炎を合併しやすく,患者1000人に1人の割合で脳炎が発症するとされています。
予防対策	麻しんの予防に最も有効な方法は,予防接種を受けることです。市町の実施する定期予防接種の対象者は早めに予防接種を受けましょう。
その他	周りに麻しんにかかった人がいて,風邪のような症状や熱が出た場合は,医療機関に電話で「麻しんにかかっているかもしれない。」と伝えて,早めに受診するようにしましょう。